

# CEFR対照表

各検定のスコアを統一基準でレベル分けしたのが「CEFR(セファール)対照表」。  
検定を受検したら、自分の英語力が CEFR のどこなのか確認しよう。

CEFR	各 検 定 の ス コ ア									
	(英検CSE)	英 検 各級のテストで CEFRの判定が可能な範囲		TEAP	TEAP CBT	IELTS	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W	GTEC CBT	ケンブリッジ 英語検定
<b>C1</b>	3299   2600	合格 2630→	3299 ↑ 1級	400   375	800	8.0   7.0	120   95	1990   1845	1400   1350	199   180
<b>B2</b>	2599   2300		2304 ↓ 2級	374   309	795   600	6.5   5.5	94   72	1840   1560	1349   1190	179   160
<b>B1</b>	2299   1950	合格 1980→	2299 ↑ 2級	308   225	595   420	5.0   4.0	71   42	1555   1150	1189   960	159   140
<b>A2</b>	1949   1700		1728 ↓ 2級	224   135	415   235			1145   625	959   690	139   120
<b>A1</b>	1699   1400	合格 1456→	1699 ↑ 3級					620   320	689   270	119   100

2018年3月26日大学入試センター発表資料を基に作成。今後更新がされる可能性もある。

※各検定のスコアは4技能のもの。  
 ※英検の表中のスコアは、各級のテストでCEFRの判定が可能な範囲。【例】2級は2299～1728の範囲でCEFR B1かA2を判定。  
 ※GTECのCBT以外(中高生向けGTEC)と、ケンブリッジ英語検定の個々のテストは、利用できる大学が少ないため割愛(下グラフ参照)。  
 ※CBT、iBTは、4技能すべてをコンピュータで行うテスト(TEAP CBT、GTEC CBT、TOEFL iBT)。  
 ※TOEICのスコアはS&W(話す、書く)のスコアを2.5倍にして、L&R(聞く、読む)と合計したもの。

## 注目はやっぱり英検！

### 英検の仕組み

- 英検は各級で試験が分かれていて、希望する級を受検する。
- 成績は「英検 CSE」というスコアで、「級の合格・不合格」と「CEFR」を判定。  
【例】2級の試験を受けて、CSEが2000だった⇒2級合格、CEFR B1。  
※CEFRの判定は今後予定。現在の成績表には示されていない。
- 各級には、CEFRの判定が可能なCSEの範囲がある。  
実力にあった級を受検しよう(不合格でも範囲内ならCEFRの判定は出る)。  
※範囲を上回った場合は各級上限のCEFRで判定され、下回った場合はCEFRが判定されない。

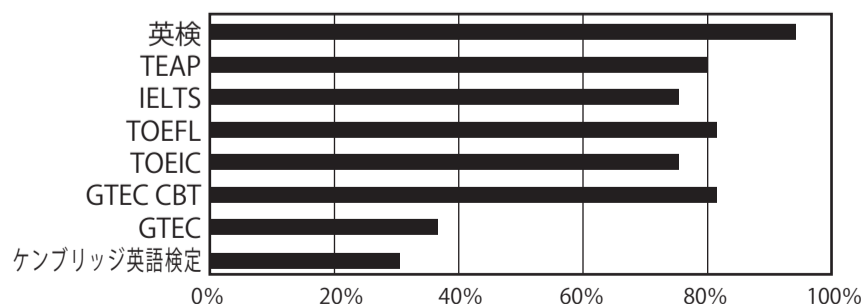
## 「級の合格」「CSE」「CEFR」、結局、何が大事？

入試で利用するなら、「級の合格」をめざすのが基本！

### 入試のパターン

- 「級の合格」を求める大学 …… 現在、多くの大学がこのパターン。
- 「CSE」「CEFR」のみを求める大学 …… 級が不合格でもOK。

## 大学が「利用可」とする検定の採用率(2018年一般入試)



## 入試で利用しやすいのは英検とTEAP

- 多くの大学で利用可能。
- 日本独自の検定で、高校での学習内容に則している。

